保育ネットワーク

自然に恵まれた保育環境を活かし遊びをとおして子どもの主体性を育成する

社会福祉法人鳥取福祉会
わかば台保育園
（鳥取県鳥取市）

鳥取県東部の鳥取市若葉台地区は、昭和58年から都市開発が進められたニュータウンです。豊かな自然に囲まれ、美しい街並が続く住宅地の一角に、わかば台保育園はあります。平成7年、都市開発に伴う人口の増加により、地域の要請を受けて開園しました。園の保育テーマは「遊びきる子どもをめざして」。「遊びきる子ども」は鳥取県がめざす幼児の姿でもあり、県ではその取り組みの一環として、平成29年、豊かな自然を活用して自然体験活動を行う保育所、幼稚園等の施設を認証する「とっとり自然保育認証制度」を創設しました。「とっとり自然保育認証園」は現在県内に18園あり、わかば台保育園もその認証園となっています。

カテゴリーⅠ「子どもの育ちを保障する」

①質の高い保育について研究をすすめ、実践につなげます。 ※

年齢に応じた自然体験活動を実施し、遊びきる子どもをめざす

浦林幸子園長

「子どもの学びは、遊びや生活を通じて生まれます。遊びきる子どもをめざすためには、直接体験を重視し、子どもが自らかかわり、仲間と協同する、主体的な遊びを展開することが必要です。当園では、『とっとり自然保育認証園』にも手を挙げ、地域の豊かな自然環境を活かした自然体験活動を行っています」と浦林幸子園長は話します。

自然体験活動は、保育園裏手にある里山をはじめ、園庭や園周辺の豊かな自然を活用して行います。この里山は、地域の人たちによって整備されたウォーキングロードになっており、小鳥のさえずりや虫の声、川のせせらぎを聞きながら、でこぼこ道を歩き、山菜や野いちごを見つける等、季節を感じ、五感を使ってさまざまな体験ができる場所です。

「里山へ行くのは5歳児からですが、0歳児から年間計画を立てて自然体験活動を行っています」と河村明美保育士長。たとえば0、1、2歳児であれば、園庭や園の近くにある遊歩道で落ち葉や木の実を拾ったり、裸足で園庭の芝生の感触を味わったり、3歳児であれば、園庭や近くの公園で草花や虫を見つける等、身近な自然に日ごろからたくさん触れています。そして4歳になると、いよいよ里山の入口あたりにある多目的広場まで出かけます。里山がすぐ近くなので、山の土の匂いがしたり、小鳥の声も聞こえます。4歳児は里山へ行くことに憧れを抱き、来年が来るのを心待ちにしているそうです。

河村明美保育士長

里山は、ウォーキングロードとして整備はされていますが、狭い１本道や崖等、危険な箇所もあります。しっかりと体力がついて、ルールをきちんと守れるようになった5歳児だからこそ行ける場所なので、「年長になったから、里山へ行けるんだ！」と誇らしげに出かけていくそうです。里山での活動は、四季を通じて行っています。「この活動をとおして、『葉っぱをすりつぶして色水を作ったらどんな色になるんだろう？　どんな匂いがするんだろう？』といった探究心、友だちと一緒に考えて行動する協働性の部分が大きく成長したように感じます」と、河村保育士長は手応えを話します。

カテゴリーⅢ「多様な連携と協働をつくる」

⑬小学校等との連携を深めます。 ※

地域の人々との交流、小学校との連携により豊かな心を育み、就学へとスムーズにつなぐ

美しい景観で知られる若葉台地区では、住民による環境整備や歩道の保全・美化等の活動が活発に行われています。「里山ウォーキングロードを整備された若葉台地区まちづくり協議会の皆さんは、道路の法面に園児と一緒に芝桜を植えたり、保育園の畑でかぼちゃを育てる等、当園の子どもたちともさまざまな交流をしてくださっています。ほかにも地域住民の方がたが活動する会がいくつかあり、子どもたちが散歩に行く遊歩道の草刈りをしてくださるアダプトの会、みかんの木を植えてみかん狩りをさせてくださるおやじの会もあります。温かな地域の方がたの力を借りて、日々の保育を行っ

里山のウォーキングロードを歩く

地域の人と、かぼちゃの苗を植える４歳児

保育園の中庭で、
落ち葉で遊ぶ２歳児

森岡優子副園長

ています」と森岡優子副園長。「人との出会い、つながりによって、幼児期の体験がより豊かなものとなっています。ありがたいことですね」と、浦林園長が続けます。

人とのつながりは、地域の小学校との連携という形でもよりよい関係が築かれています。園に隣接する若葉台小学校へは卒園児の約7割が進学します。以前から小学校との交流はありましたが、平成27年に実施された「長期社会体験研修」により小学校教員が保育園で1年間研修を行ったことをきっかけに、教員と保育士との間にさらに深い共通理解が生まれました。

「小学校と保育園の職員の意見交換は、その後も続けています。共通の課題も多く、小学校では、あるいは保育園ではどのようなことをしていくべきなのかといった擦り合わせもできますので、保育から学校教育への移行がスムーズにできるようになったと自負しています」と、森岡副園長はその効果を述べます。小学生と園児の交流もあり、1年生と年長児、5年生と年長児の交流会を年に2回ずつ設け、自然物を使った工作やゲーム遊び等をして楽しい時間を過ごします。5年生との交流は、「入学したらお兄ちゃんやお姉ちゃんが待っていてくれる」という安心感にもつながっています。

里山で木の音を聞く

若葉台地区とともに歩んできたわかば台保育園は、開園して24年目となりました。浦林園長は、「これからも、豊かな自然環境のなかではさまざまな体験と充実した遊びをとおして、「人」「もの」「こと」との出会いを大切に、子どもたちの力を育み、就学へとつないでいきたいですね」と、思いを語られました。

今回お伺いしたのは

社会福祉法人鳥取福祉会　わかば台保育園
（鳥取県鳥取市）

■施設基礎データ（平成30年10月現在）

運営主体：社会福祉法人鳥取福祉会
定　　員：190名（現員176名）
　　0歳15名、1歳33名、2歳34名、3歳27名、4歳37名、5歳30名
職　　員：32名
　　園長1名、副園長1名、保育士長1名、主幹保育士2名、主任保育士3名、
　　保育士21名、看護師1名、子育て支援員1名、清掃員1名
事　　業：延長保育、障害児保育

※本文中の「カテゴリー」および丸文字は、「全保協の将来ビジョン」に基づき、関連のある項目を記載しています。「全保協の将来ビジョン」は全保協ホームページでご覧いただけます。